

# 肺炎の話

醫學博士 廣 瀨 興

肺炎は冬季に最多い小兒病であつて、日本の乳幼兒の死亡率の他國に比して高率の一つの原因をなしてゐる重大な疾病である。そうした乳幼兒の生命に重大な關係にある肺炎を醫學上から見るに、二つの種類に見る事が出来るのである。

一つは氣管枝肺炎又はカタル性肺炎であり、一つはクルーブ性肺炎と稱するものであるが、感冒や氣管枝カタル、咽喉カタル等から併發されるものゝ多くは、氣管枝肺炎である。

## 氣管枝肺炎(カタル性肺炎)

この疾病は一定した病型を示す事なく、徴候や傾向が種々多であつて健康の小兒が、突然發熱する事があつたり、或は急性鼻咽喉カタル、或は氣管枝カタル等に續發して漸

次本性になる場合があるのである。

主なる徴候は咳嗽と發熱と呼吸困難に加はるに、腦刺戟症狀、胃腸障礙、血液の循環障礙及び心臟の衰弱等である。經過は短かいものは一週間、長いのは三週間或はそれ以上に及ぶ事もある。

さて其間食慾は漸次減退し、睡眠も不充分となり、安眠を得られなくなる。呼吸の困難は甚しくなり、乳兒の場合には乳を吸ふ事が出来なくなり、従つて衰弱を益し又乳兒は力強く長く高聲を發して泣く事が出来なくなる。咳嗽は苦悶性のものであり、疼痛があるが如き刺戟性の咳嗽をなし高熱を發する。

而してその高熱は非常に上り下り變化のひどいものである特徴がある。又重患のものになると、無欲狀態となつて

食慾が全くなくなり、乳兒ならば乳を飲まなく、顔面蒼白となり、チアノーゼ（口唇紫色）になつて来るを起し、手足が冷却して来るのである。この様になるを、漸次に心臓の衰弱の徴候を現し、時に肺水腫を起し倒れるに致るのである。

**咳嗽**

咳嗽は特別の定型はないが、苦悶を伴ふ刺戟性のものである。又時には痙攣性の咳嗽をする事もある。斯うしたやうに咳嗽は本症に必ず發生するところの症状であるが、この咳嗽の輕重は、疾病の輕重は、常に平衡するものであると言へない。

初生兒の肺炎等には全く咳嗽のない場合があり、殊に幼兒にあつては、喀咳は嚥下されるために、疾病の診斷の參考とする事が出来ない場合が多い。

**呼吸**

呼吸は頻數になつて呼吸困難を見る。殊に乳兒にあつては、鼻翼呼吸をなし呼吸困難の状態を示すやうになるにつれて、心窩部、胸骨上窩、肋間の陥没を見る事がある。が、

かうなるを呼吸に一種の呻吟を伴ふやうになる。呼吸數は六〇乃至七〇を數へ時には、一〇〇にまで増加する事がある。

常態に於ては我々の呼吸數は一分間に次のやうな數になり、呼吸ミ脈搏ミの割合は呼吸一に對して、脈搏四ミなるものである。

乳	兒	三〇乃至六〇
幼	兒	二〇乃至三〇
八歲乃至一〇歲		二〇乃至一八
成人		一八乃至一六

**發熱**

熱型は極めて不規則に上下するのが普通で、最高は三九度から四〇度に達し、決して一定數に留る事なく最低は三七度五分から三八度五分の間の最低最高間を上下して常に不動なる點が後述するグループ性肺炎ミ全く異なる處である。

**心臓の機能に及ぶ影響**

本症に罹るを、心臓の機能が衰弱するために、發熱に比

して脈搏數を増し、口唇、鼻先が紫色になつて即ち、チアノーゼの状態を現すやうになる、そうするに、顔色は蒼白になり血の氣を失ひ、手足は冷却してゐるのである。これは本症の重患の場合の特徴である。

### 合併症

本症にかゝるにその症状の経過中にしばしば中耳炎を併發し、膿胸をも併發する場合がある。

### クループ性肺炎

この種の肺炎は三、四歳から五、六歳の幼児に多く發する疾病であつて重なる徴候は次の様である。

### 發熱

始めは突然に高熱を發し、三九度から四〇度にも及び、嘔吐、悪寒を伴ふのであつて、幼児にあつては激しい痙攣によつて始まる場合もある。

發熱の當初はたゞ高熱であり、脈搏は多いが、呼吸は別に増加せず又呼吸困難もないので、一般の家庭では、通常の感冒位に考へてきりかへしのつかない状態になる事が往々ある。段々病氣が進行するに従つて、不機嫌になり安眠

する事が出来なくなり泣く様になる。

### 呼吸

發病後三、四日たつて呼吸運動の場合に胸部の運動不充分になつて、一層呼吸頻數になり又呼吸は大變淺くなつて來る。そうして、呼吸に際して一種の喘鳴を發するがこの種の肺炎の特殊の徴候である。

小兒はしばしば腹痛を訴へ、下痢等のある場合には腸の疾患かと思はれる事が往々ある。この疾病の症状がその最高點に達した時には舌苔が重くなつて顔面が紅潮を呈し、意識は溷濁するに至る。

### 熱型

本症の特異なる點は、その熱型であつて、三九度乃至四〇度に止つて低下せず約一週間に及んで、始めて突然急に熱は下行し、三七度五分位に至るのであるが、この熱の下行に對してこれを「分離する」と言ふのである。この際には特に多量の發汗を伴ふものである。この分離の症状がこの種の肺炎の特徴であつて、カタル性肺炎と全く異なることの點である。そして、この熱の分離があれば患者の外観

も急に一變し良好きなり、苦悶の様子も失せ、食欲も増加するのである。脈搏も強く打つやうになり、元氣が出て笑顔を作るに至るのである。

### 豫防法

平素感冒にかゝらない様に、日光浴、合理的栄養(兒童栄養の話、肝油の話参照)一般の衛生的注意(感冒の話参照)をする事が何より必要である。即ち感冒や氣管枝カタルの流行時にはなるべく人混みに乳幼児を連出す事をしないやうにする事や、マスクを使用する等の注意が必要である。又重曹水で、硼酸水で、含嗽(感冒の話参照)をする事も亦心がけねばならない。

冬季の室内が餘りに乾燥する事は悪いから適當の濕度を保つやうにしなければならぬ。言つてその溫度が過度にならぬやう注意しなければならぬ。又特に親として心掛けねばならぬ事は、扁桃腺の肥大であつて、このために常に感冒に罹り易い小兒は適當の時期に、これを適出してふここは間接に肺炎の豫防となるであらう。

### 手當

#### 病室内の溫度

病室内の溫度は攝氏一八度——二十度(華氏六四度——六八度)に保つのが最適した溫度である。

この溫度に室内を保つためには適當な暖房裝置が必要となるわけであるが、蒸氣或は湯湯による暖房裝置は最理想であるが一般家庭では望めない事であるから可能性のある「よりよい」暖房について述べやう。

通常家庭に於いては炭火を用ひて暖を取るが炭火は多量に一酸化炭素を發生し、非常に有毒であるから氣をつけなければならぬ。よく、炭火を赤熱したものは有毒ガスが出ないといふ誤信してゐる人があるが近代の研究によるまかへつてこの赤熱した時期に多量の有毒ガスが出るま云はれてゐる。故に炭火を暖房に使用する場合には如何なる場合にも室内の換氣に充分氣をつけなければならない。

この事は一つに炭火の場合ばかりではなく、石油ストーブ、ガストウブ、其他完全燃焼云はれてゐる器具を使用の場合に就いて等しく云はれる事である。

特に暖房裝置としては煙突のないものは理想的であるこ

は云はれない。

殊に本症の場合の如きは空氣の汚染が病患を一層惡化せしめるから注意しなければならぬ。

ところで一般家庭で如何なる方法で暖を取つたらよいか云ふは、先づ前述の理想的裝置及び電氣ストーブであるが經濟的方面から一般に望む事は不可能であるから、著者は經濟的方面から見て、又其他の簡易な暖房裝置から見て、煉炭利用の溫湯暖房裝置及煙突つきの煉炭ストーブが一番よゐ考へる。

#### 病室内の濕度

室内は乾燥に過ぎてはいけぬが、餘り濕潤であり過ぎる事は却つて病狀を増惡せしめるものである。火鉢に洗面器をかけ水蒸氣をこしく立て室内に充滿させた様な方法は、近年行はれなくなつて、却つて新鮮な空氣を室内に入れる様な、大氣療法を行ふ人さへあるのである。これは一般に室内の濕度が餘り高くなり過ぎるに、體內よりの放熱作用が妨げられて鬱熱の状態を來し體內の新陳代謝を著しく害するからである。

我々の日常の生理作用は食物により營養を攝り、熱をつくる産熱作用、過剰の熱を體外に出して常に體温を三七度前後に保たうとする放熱作用、この正しい調節の破れた時に、始めて病的の状態が現れるのである。その放熱作用に言ふのは呼吸作用、大小便の排泄作用、今一つ重要なのは皮膚よりの排泄作用即ち皮膚呼吸に依つて行はれるのである。處がこの重大な作用である皮膚呼吸は若し室内が餘りに高濕の場合には、一般の物理的法則によつてその作用を害され、充分に放熱作用を行ふ事が出来なくなるのである。故に、殊に肺炎の如き場合に於ては、肺の呼吸作用が衰弱し、或は高熱の爲めに一層の發汗作用の甚しくならんとする場合に室内を高濕に保つ事は、益々放熱作用を妨げ體內に鬱熱を來し症狀の惡化に助力する事になつて、大害あつて一利ない結果になるのである。故に前述の如く近年に於ては新鮮なる空氣を室内に導き入れる、大氣療法さへ行はれ、その皮膚呼吸作用による放熱作用を重大視する様になつたのである。然し、かうした大氣療法の如きはよく醫師の指導の下に行はるべきことであつて、素人が單獨に

行ふべきではない。

家庭に於て一般に知つて置かなければならない氣象的關係(溫度、濕度、氣流)について述べれば、先づ室内に於て無風の場合、その室内の濕度計の濕球計が華氏の五六度を示した場合が最適當な濕度にあるので、この點を快感點と云つて最も健康に適合した條件にあるのである。若し濕度が上昇して濕球計が華氏六五度以上昇したならば、風速は一分間に五〇〇呎(一五五米)にならなければ前述と同様の快感點を得られないのである。故に室内が非常に高温高濕なる時は通風を充分によくしなければならぬ。

(日本の梅雨期にはこの注意を充分にしなければならぬ。それは日本の乳幼児の死亡率が殊に下痢、腸炎のために高率を示す一つの原因は、この高温高濕のためであると言はれてゐるのである。)

## 吸入

咳嗽に對しては、吸入を行ふ事が最も必要な事であつて病症によつて、種々であるが一日數回は吸入する必要がある吸入薬としては次の如きものがよい。

含嗽瓶(四〇〇瓦入)一本について、重曹四瓦、リスリン八瓦、水四〇〇瓦。

大人ならばリスリンの代りに食鹽(三瓦)を入れてもよろしい。

咳嗽がひどく、呼吸困難強度になつた場合には酸素吸入を行ふもよい。勿論これには特殊の設備がある事であるから、これは醫師の指示によらなければならぬ。

乳兒に通常の吸入をする場合硝子の口の先きを他物で延長して先きを細くして使用した方が使用し易すく目的を達するによい。一回の吸入は容器に一二杯するのがよい。

## 濕布

外部よりの處置としては、胸部に濕布するのであるが、濕布は出来るだけ熱いお湯でしぼり上げ、油紙の上に擴げて胸部に當て、上から油紙で包み、布にてその上を着物を着せる場合のやうにして包む。又エキホスの如き藥劑濕布を行ふてもよい。時には醫師の指導の下に芥子粒の貼付、芥子湯の濕布を行ふて、効果のある場合がある。

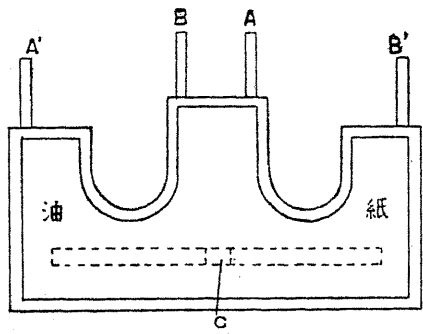
殊に主なる温濕布に就いて今少し説明を加へ様。

次圖の如き濕布帶を造るに温濕布をずるのに好都合である。

この濕布帶は先づ油紙或はゴム引き布を次圖の型に切り、その外側にネルの外皮をつけA A'、B B'、に紐をつけ外側C點に圖の如き紐をつける。

これを使用する場合にはこの内部の油紙或はゴム引き布を上部に置き、濕布帶を小型にしたネル布二枚乃至三枚重ねたものを

濕布帶の略圖



熱つい湯でしぼり、その上に擴けて、手早く患者の背部に廻し、濕布を胸の上によく重ね、それから濕布帶を重ね外側の紐を結び、頸部のA A'、B B'を結

びて濕布のズリ落ちるのを防ぐのである。

濕布は三時間をき位ひに取換へ布の乾燥しない様に注意する事が必要な事である。云つて患者が安眠してゐる場合には時間の延長してもそれは安眠を妨げぬ方がよい。

濕布を長く續けるに濕布カブレを生じる場合が多いが、

この場合には亞鉛華オリーブ油を添付するによい。又皮膚の弱い子供で濕布カブレの出来る場合には濕布に要する湯の中に硼酸を入れたものを使用するによい。その硼酸の分量は洗面器一杯の湯に對して茶匙二乃至三杯の分量を入れるによい。

濕布に對しては以上の如き注意を以つて行へば先づよい。たゞ濕布のシボリ方が弱くその湯が濕布帶からにぢみ出衣服をぬらし、蒲團をぬらす事が度々あるが、この事は注意しないに、かへつて病氣に悪い結果を導く事があるから注意しなければならない。

この注意事項は唯だ濕布の場合ばかりではなく、氷枕、氷嚢の場合にはなほ一層の注意を要する。

氷嚢・氷枕

高熱の場合に氷嚢、氷枕を使用するのは勿論であるが、特に、左乳房下部即ち心臓部に小兒拳大の氷嚢を當て心臓の衰弱を防ぐ事がある。肺炎の場合には心臓衰弱のために、手足が冷却して來るから、ユタンボを入れてこれを防ぐ事が必要である。

### 食 事

食事は流動食即ち胚芽米の重湯、牛乳、鶏卵、林檎其他の果汁、野菜スープ等を與へ、輕症の場合には、蛤、牡蠣の野菜を入れたスマシ汁（人蔘、大根、菠薐草等の新鮮なもの）を細く切つて入れる事等を與へてよい。又與へる菓子類としては、ウエファー、カルケット、ニレット、キャラメル等はよいのである。

### 其他の手當

咳嗽其他のために小兒が泣いて睡眠が不足になる場合には、充分注意して、母が拘いて睡眠を攝らせるやうにする事も、その場合に於ては止む得ないが成るべく絶體安靜の方がよい。肺炎の病狀によつて醫師の施す手當としては、心臓を強めるための各種の強心薬の注射、輸血、生理的食

鹽水の注射、葡萄糖液の注射等の療法を行はなければならぬ場合が生ずるが、之れらは醫師に委せて適當の時期に行はねばならない。

### 恢復期の注意

肺炎に罹つた場合に特に注意しなければならぬ事は、病後の衰弱してゐる場合に結核等に患される事があるから、特に、榮養、空氣、日光等其他保健に必要な條項を守り、急速に衰弱を恢復する方法に務めなければ、一生の負ひ目を荷はなければならぬ事が多いから、充分注意を拂ふ事が肝要である。（終）

本誌一月號所載、及川氏の人形花子さんの型紙を當幼稚園兒の爲に印刷いたしました。ものがございませう。いくらでも印刷出來ます様に取り計らつてございませうから、御注文下さい。

一人前（前型、後型） 二一 錢

中込先 東京市小石川區東京女高師附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一〇〇枚（五〇人前）以上に願ひます